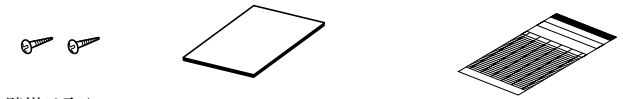
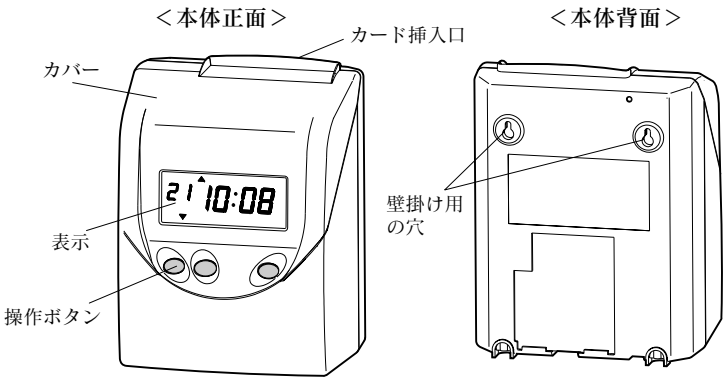
3. ご使用になる前に

付属品をお確かめください

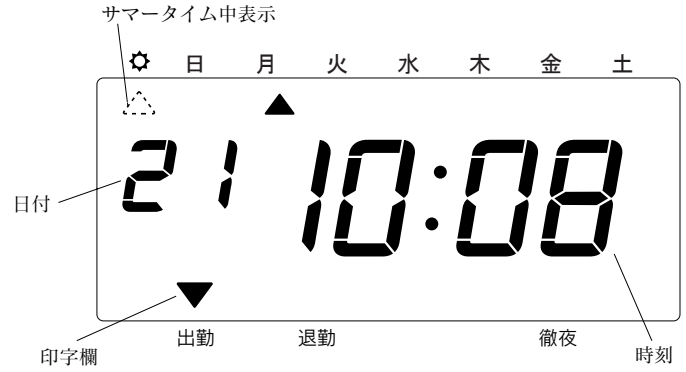


壁掛け取り付けネジ2本　　取扱説明書(本書)　　タイムカード(SEIKO Cカード)1枚

各部の名称



＜表示＞



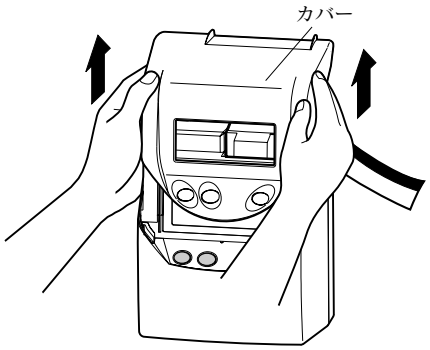
タイムレコーダー内部のパッドを外してください

タイムレコーダー内部には、輸送時の振動などから製品を保護するためのパッドが入っています。

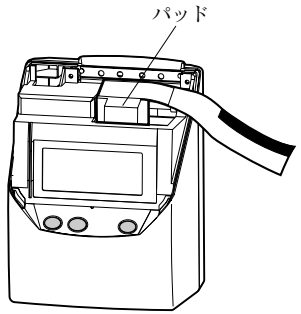
> ❗ 電源を入れる前に必ずパッドをタイムレコーダーから抜いてください。

ご使用時、パッドは不要です。

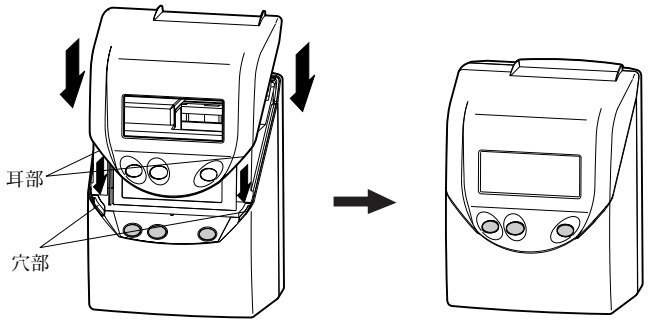
❶ “カバー”の左右を2ヶ所を持ち、上に引き上げます。



❷ “パッド”を抜きます。



❸ “カバー”の下部両側の“耳部”を本体の“穴部”に真上から差し込みます。



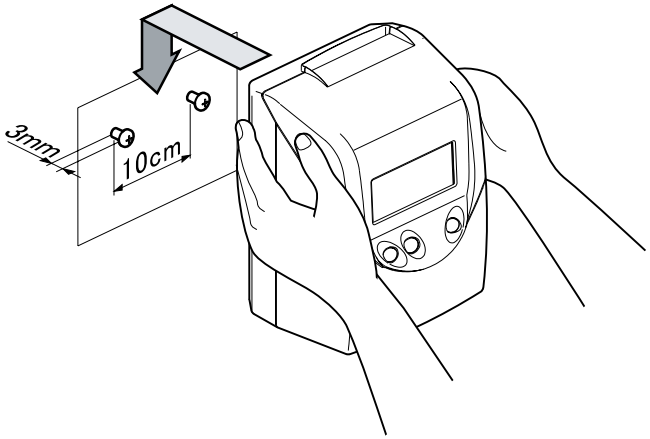
壁掛けの方法

付属のネジを使って、タイムレコーダーを壁に掛けることができます。壁に掛けて使用する場合には、次のようにしてください。

❶ 付属の壁掛け取り付けネジ2本を、横10cmの間隔で壁に取り付けます。このときネジの頭を3mmほど出して、取り付けてください。

❷ タイムレコーダー背面の壁掛け用の穴を使って、ネジに引っかけます。

> ❗ 同梱されているネジは木造の厚い壁や木の柱でご使用されることを前提としており、それ以外の条件の場所ではご使用にならないようにしてください。タイムレコーダーが落下してお客様がケガをされたり、また本体の故障の原因となるおそれがあります。



設置について

次のような場所でのご使用は避けてください。

- ●湿気やほこりの多い場所
- ●直射日光のあたる場所
- ●振動の激しい場所または常時振動が発生する場所
- ●気温が−5℃以下や、45℃以上の場所
- ●化学薬品やオゾンなどの影響をうける場所

4.日常の操作

時刻や締日などタイムレコーダーが動作するために必要な事柄は、あらかじめ設定してありますのでパッドを外した後**電源を入れてすぐお使いいただけます。**

> ❗ 前述の「3.ご使用になる前に」を必ずお読みください。

タイムレコーダーの使い方はきわめて簡単です。タイムカードを挿入していただきますと、カードは本体に自動引込みされ、印字後排出されます。

> ❗ カード挿入口にクリップ等の金属は絶対に入れないでください。また、カードを無理に押し込まないでください。故障の原因となる恐れがあります。

そのままの状態ですぐにお使いいただけますが、締日などが実際にご使用いただく場合と異なるときには、後述の「5.設定のしかた」をご参照ください。

印字欄、印字段(印字行)とは

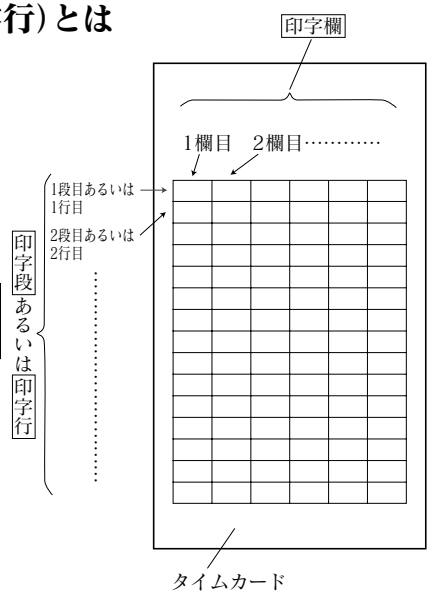
印字欄とは……

印字欄とはタイムカードの横方向の印字するマス目のことを言います。
通常、左のマス目より1欄目、2欄目……と呼び、1日の中で、出勤や退勤などの印字をする位置を変えたい場合に利用します。

> 本製品は1～2欄目まで印字することができます。

印字段あるいは印字行とは……

印字段(行)とは、タイムカードの縦方向の印字するマス目のことを言います。
通常、上のマス目より1段目、2段目……あるいは1行目、2行目……と呼び、日が変わると1つ下の段(行)に印字します。

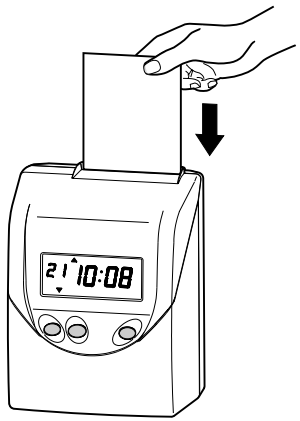


表示されている印字欄に打刻します

タイムレコーダーは表示の印字欄指示の“▼”が指している位置(印字欄)に印字します。

例：1欄目に印字する場合

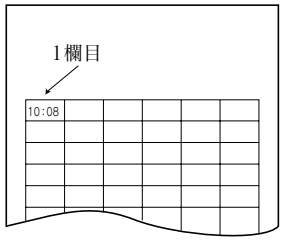
❶ 表示の印字欄指示の“▼”がいちばん左の“出勤”のところにあることを確認します。



❷ タイムカードをタイムレコーダーにかるく入れます。カードは自動的にタイムレコーダーに引き込まれます。

印字後、自動的にカードはタイムレコーダーから上がってきます。

通常、タイムカードは青い面よりご使用ください。



❸ 印字は１欄目に打たれます。

タイムレコーダーは1日に2回(2欄分)印字することができます。

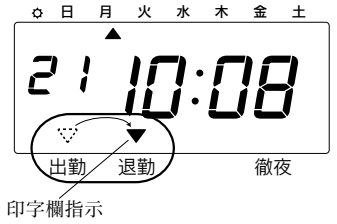
打ちたい印字欄を変えるには

印字欄を変更する場合は、“操作ボタン”を押してからタイムカードを入れます。

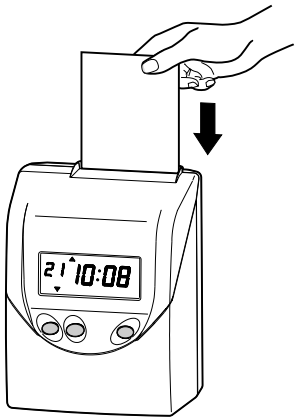
例：１欄目から２欄目に印字位置を変えて打つ場合

❶ 左から２番目の“操作ボタン”を押します。

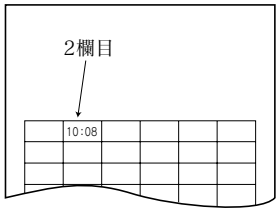
❷ 表示の印字欄指示の“▼”が図のように移動します。



❸ タイムカードをタイムレコーダーに入れます。



❹ 印字は2欄目に打たれます。



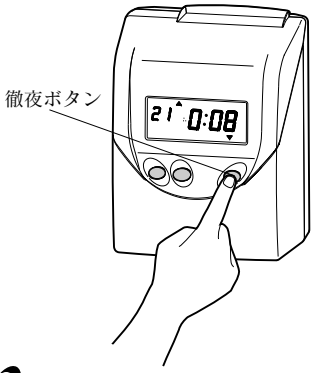
以降次の改行時刻までは、違う印字欄の“操作ボタン”を押さないかぎり2欄目に印字します。
改行時刻：「改行時刻の設定」の項をご参照ください。

ボタン操作なしに印字欄を変えるには“出勤－退勤切換時刻の設定”の項をご参照ください。

徹夜印字をするには

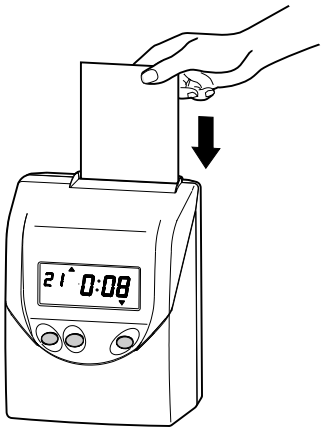
徹夜印字をする場合は、“徹夜ボタン”を押してからタイムカードを入れます。
前日の段の2欄目に“テ”コメント付きで印字されます。

❶ “徹夜ボタン”を押します。

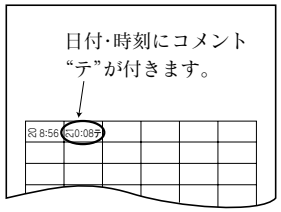


❷ 表示の印字欄指示の“▼”が図のように点灯します。

❸ タイムカードをタイムレコーダーに入れます。



❹ 印字は前日の段の2欄目に“テ”コメント付きで印字されます。



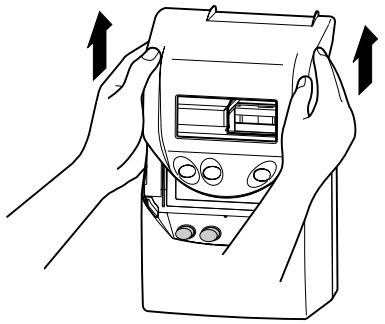
5. 設定のしかた

設定の準備

締日や時刻などを設定する前に、“カバー”を外して設定できる状態にします。

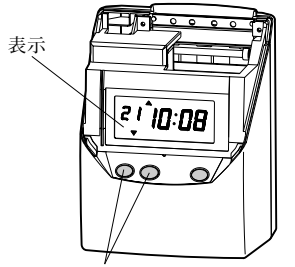
> ❗ 設定する時は、コンセントに電源プラグをさしこみ通電した状態で行ってください。

❶ “カバー”の左右2ヶ所を持ち上に引き上げます。

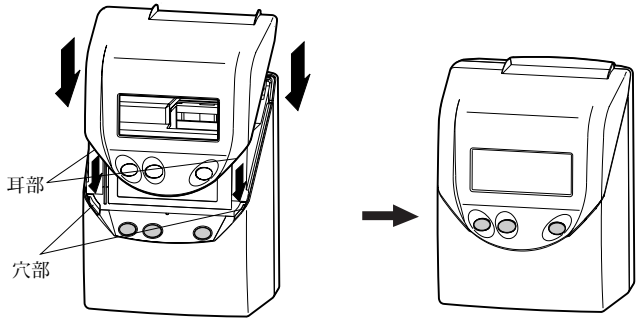


❷ 左から1番目と2番目の“操作ボタン”を同時に3秒間押して、設定モードにします。
“表示”を見ながら“操作ボタン”を使うことにより設定ができます。

> 各設定の詳細については
> 以降をご覧ください。



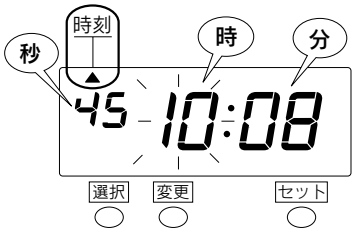
❸ 設定終了後は“カバー”の下部両側の“耳部”を、本体の“穴部”に真上から差し込みます。



時刻の設定

時刻を変更するときに設定してください。

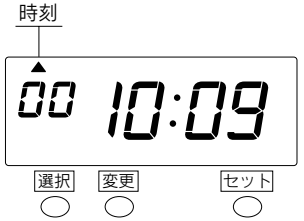
例 10時8分45秒を10時9分00秒に変更する場合



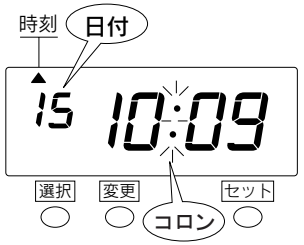
❶ 選択と変更ボタンを同時に3秒間押して設定モードにします。
表示の上側“▲”が左から1番目の“時刻”に合わさります。

点滅している数字が変更できます。

❷ 例では“時”は10時のまま変更しませんので、このままセットボタンを押します。これで10時が設定できました。
このとき表示の点滅は“時”から“分”に移ります。
また、“秒”は“00”秒になります。



❸ 時刻の“分”を変更します。
(例8分→9分)
変更ボタンを押して、“09”分に合わせ、次にセットボタンを押します。(“秒”が進みだします)。これで9分が設定できました。



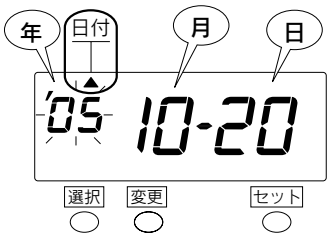
❹ 最後にセットボタンを押して、設定モードから通常のご使用状態に戻します。
「日付」「時刻」の表示になり、コロンが点滅しているのを確認してからカバーをつけてご使用ください。

裏面へ

日付の設定

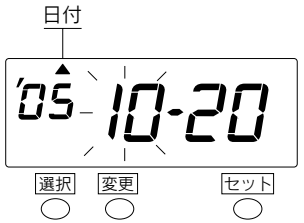
日付を変更するときに設定してください。

例 2005年10月20日を同年同月21日に変更する場合



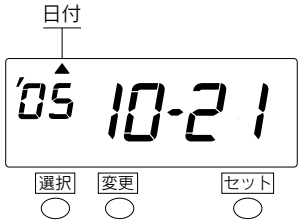
❶ 選択と変更ボタンを同時に3秒間押して設定モードにします。
選択ボタンを押して、表示の上側“▲”を左から2番目の“日付”に合わせてください。
年は西暦下2桁で表示されます。

点滅している数字が変更できます。



❷ 例 では、“年”は2005年のまま変更しませんので、このままセットボタンを押します。これで2005年が設定できました。このとき表示の点滅は“年”から“月”に移ります。

❸ 例では“月”は10月のまま変更しませんのでこのままセットボタンを押します。
これで10月が設定できました。
このとき表示の点滅は“月”から“日”に移ります。



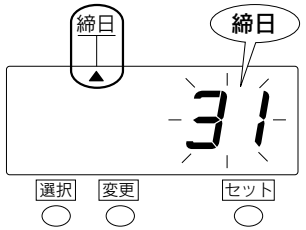
❹ “日”を変更します。
(例20日→21日)
変更ボタンを押して“21”日に合わせ次にセットボタンを押します。
これで21日が設定できました。
このとき表示の“日”の点滅が点燈に変わり日付の変更設定が終了しました。最後にセットボタンを押して設定モードから通常のご使用状態に戻します。

締日の設定

工場出荷時の設定は月末締めになっています。締日が月末と15日以外の場合は締日を変更します。

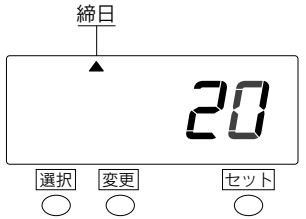
大の月(31日)、小の月(30日、28日)によらず月末締めの場合は締日「31日」のままでご利用いただけます。
15日締めの場合には締日“31”にしてカードの赤い面よりご利用ください。

例 20日締めにする場合



❶ 選択と変更ボタンを同時に3秒間押して設定モードにします。
選択ボタンを押して、表示の上側“▲”を左から3番目の“締日”に合わせてください。

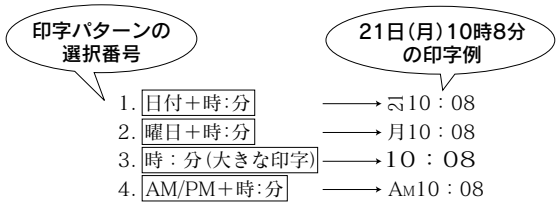
初期値は“31”になっています。



❷ 20日締めに変更します。
変更ボタンを押して、“20”日に合わせ、次にセットボタンを押します。
これで20日締めが設定できました。このとき表示の点滅は点燈に変わります。最後にセットボタンを押して設定モードから通常のご使用状態に戻します。

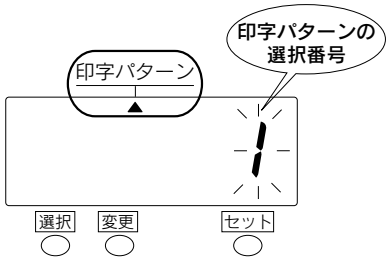
印字パターンの設定

タイムカードに印字するパターンは次の4種類の中から選択できます。



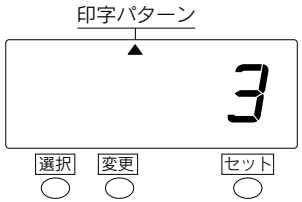
工場出荷時の設定は 日付＋時:分 になっています。

例 印字パターン 日付＋時:分 を 時:分(大きな印字) に変更する場合



❶ 選択と変更ボタンを同時に3秒間押して設定モードにします。
選択ボタンを押して、表示の上側“▲”を左から4番目の“印字パターン”に合わせてください。

初期値は選択番号“1”の日付＋時:分になっていいます。



❷ 印字パターンを時:分(大きな印字)に変更します。
変更ボタンを押して、選択番号“3”の時:分(大きな印字)に合わせ、次にセットボタンを押します。
これで時:分(大きな印字)が設定できました。このとき表示の点滅は点燈に変わります。最後にセットボタンを押して設定モードから通常のご使用状態に戻します。

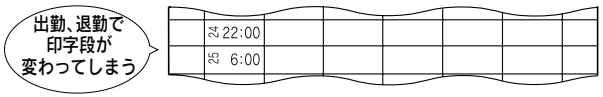
印字段切換時刻の設定

工場出荷時の設定は午前0時(0:00)になっています。

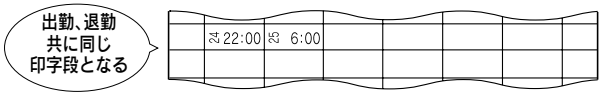
「印字段切換時刻」とは、タイムカードの印字の段が1段さがって次の日の段に切り換わる時刻のことです。夜勤などで午前０時を過ぎ日付が翌日に変わってから退勤する場合でも「印字段切換時刻」を設定することにより出勤、退勤の印字をカードの同じ段に打たせることができます。

例えば、夜勤をする人がある月の24日午後10時(22時)に出勤し翌日の25日午前6時に退勤する場合は、「改行時刻」を午前６時以降に設定しておけば出勤、退勤が同じ段となります。以下にこの人を例に印字結果を示します。

●「印字段切換時刻」が工場出荷時設定の午前0時で、午前6時に退勤する場合
(「印字段切換時刻」が退勤時刻より前の場合)



●「印字段切換時刻」を午前7時(7:00)と設定し、午前6時に退勤する場合
(「印字段切換時刻」が退勤時刻より後に設定した場合)



例 印字段切換時刻 午前0時00分を午前7時00分に変更する場合

❶ 選択と変更ボタンを同時に3秒間押して設定モードにします。
選択ボタンを押して、表示の上側“▲”を左から5番目の“印字段切換時刻”に合わせてください。

点滅している数字が変更できます。

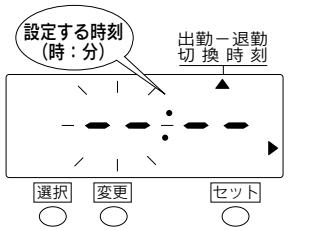
❷ 印字段切換時刻の“時”を変更します。(例0時→7時)
変更ボタンを押して、“7”時に合わせ、次にセットボタンを押します。これで７時が設定できました。
このとき表示の点滅は“時”から“分”に移ります。

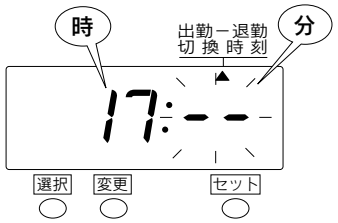
❸ 例では“分”は“00”分のまま変更しませんので、このままもう一度セットボタンを押します。
これで“00”分が設定できました。
このとき表示の“分”の点滅が点燈に変わり、印字段切換時刻の変更設定が終了しました。最後にセットボタンを押して設定モードから通常のご使用状態に戻します。

出勤－退勤切換時刻の設定

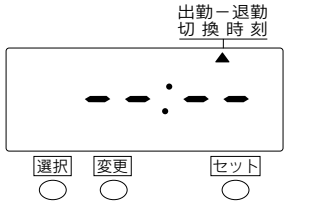
出勤－退勤切換時刻とは、退勤の印字をボタン操作なく、出勤欄（1欄目）から退勤欄（2欄目）に印字させる時刻のことをいいます。よってこの時刻を設定することにより印字を出勤欄（1欄目）から退勤欄（2欄目）に自動切換することができます。
また、退勤欄（2欄目）から出勤欄（1欄目）へは、「印字切換時刻」で設定した時刻に自動切換します。「印字段切換時刻」の詳細は印字段切換時刻の設定を参照ください。

例　出勤－退勤切換時刻を17:00に設定する場合





出勤－退勤切換時刻を消す場合



❶ 選択と変更ボタンを同時に3秒間押して設定モードにします。
選択ボタンを押して、表示の上側“▲”を左から6番目の“出勤－退勤切換時刻”に合わせてください。左図の様に表示され、“時”の表示部が点滅します。

> 工場出荷時は、“出勤－退勤切換時刻”が設定されていないので、“--:--”が表示されます。

❷ 出勤－退勤切換時刻を設定します。時刻の“時”を設定します。変更ボタンを押して“17”時に合わせ、次にセットボタンを押します。このとき表示の点滅は“時”から“分”に移ります。

❸ 時刻の“分”を設定します。変更ボタンを押して“00”時に合わせ、次にセットボタンを押します。このとき表示の点滅は点燈に変わります。最後にセットボタンを押して設定モードから通常のご使用状態に戻します。

❹ 一度設定された“出勤－退勤切換時刻”を取り消す場合は、出勤－退勤切換時刻”の“時”の表示を“--”に合わせて、セットボタンを2回押してください。
表示は左図のようになり、出勤－退勤切換時刻”は無効になります。

サマータイムの設定

日本国内でサマータイムが導入されたときに設定してください。

タイムレコーダのサマータイム機能について

◆1 **サマータイムの実行時間**
サマータイム開始日の午前2時になると自動的に時刻が1時間進み午前3時となり、サマータイム終了日午前2時になると自動的に時刻が1時間戻り午前1時となるようになっています。

◆2 **サマータイムの実行日**
例えば

開始日　2005年４月３日（日曜日）
終了日　2005年10月30日（日曜日）
と設定した場合、タイムレコーダーは開始日を4月の最初の日曜日、終了日を10月の最後の日曜日と記憶します。一度設定していただければ翌年からのサマータイムの設定はタイムレコーダーが**自動的に**

開始日　４月の最初の日曜日
終了日　10月の最後の日曜日

と更新しますので、**その後の設定は不要です。**

工場出荷時は、サマータイム開始日、サマータイム終了日の設定はされていません。

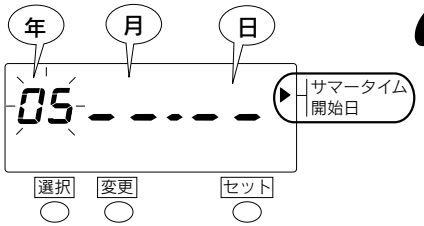
> サマータイムの設定は、その年の開始日と終了日の月日を入力することにより行います。

次の例でサマータイムの設定方法を説明します。

例
今　日（現在日）　2005年１月31日（月）
サマータイム開始日　2005年４月３日（日）＜４月最初の日曜日＞
サマータイム終了日　2005年10月30日（日）＜10月最後の日曜日＞

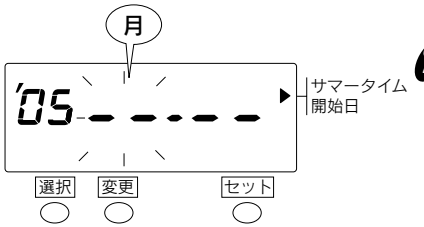
サマータイム開始日の設定

例　開始日：4月の最初の日曜日の場合
(2005年４月３日 の場合)

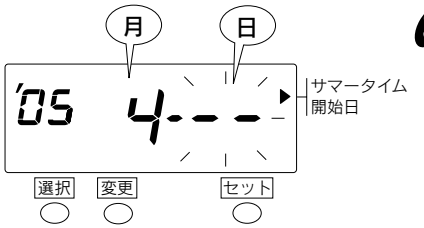


❶ 選択と変更ボタンを同時に3秒間押して設定モードにします。
選択ボタンを押して、表示の“▲”を右横の“サマータイム開始日”に合わせてください。

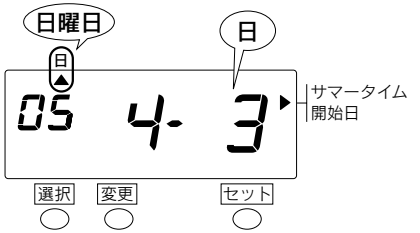
点滅している数字が変更できます。



❷ 例では、“年”は2005年のまま変更しませんので、このままセットボタンを押します。このとき表示の点滅は“年”から“月”に移ります。



❸ サマータイム開始の“月”を設定します。
変更ボタンを押して、“4”月に合わせ、次にセットボタンを押します。これで4月が設定できました。このとき表示の点滅は“月”から“日”に移ります。

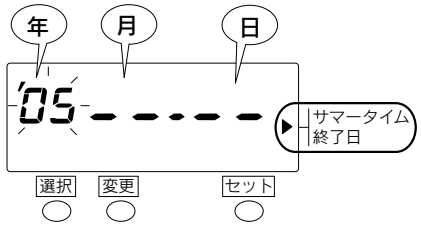


❹ サマータイム開始日の“日”を設定します。変更ボタンを押して“3”日に合わせ、次にセットボタンを押します。これで3日が設定できました。このとき表示の“日”の点滅が点燈に変わり日曜日の下に“▲”が点燈します。これでサマータイム開始日の設定が終了しました。
最後にセットボタンを押して設定モードから通常のご使用状態に戻します。

サマータイム終了日の設定

例　終了日：10月の最後の日曜日の場合
(2005年10月30日の場合)

サマータイム開始日と同じ方法で設定します。



❶ 選択と変更ボタンを同時に3秒間押して設定モードにします。
選択ボタンを押して、表示の“▲”を右横の“サマータイム終了日”に合わせてください。

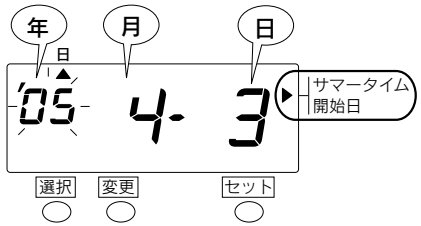
点滅している数字が変更できます。

❷ サマータイム開始日と同じ方法で終了日の年月日“'05 10-30”を設定します。

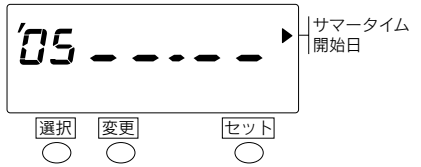
サマータイムを取り消す場合

一度設定されたサマータイムを取り消す場合は“サマータイム開始日”の“月”の表示を“- -”とすることによりサマータイムは無効になります。

例　“サマータイム開始日”の2005年4月3日(日)を変更し
サマータイムを取り消す場合



❶ 選択ボタンを押して、表示の“▲”を右横の“サマータイム開始日”に合わせてください。



❷ “月”を“- -”に合わせセットボタンを2回押してください。
表示は左図のようになり、サマータイムは無効になります。

パスワードの設定

改ざん目的などの故意の時間修正や設定の変更を防止するため4桁のパスワードを設定できます。

■パスワードは“0001”～“9998”までの数字で設定してください。
“0000”及び“9999”は設定できません。

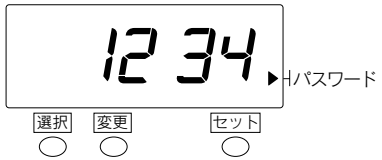
パスワードを設定した場合は、パスワードを入力しないと、時刻修正や設定を変更できません。パスワードの入力方法は「パスワードの設定」の手順2～4と同じです。

例 パスワードを“1234”に変更する場合

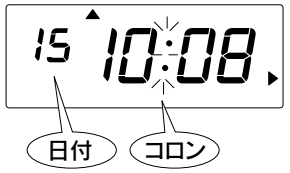
❶ 選択と変更ボタンを同時に3秒間押して設定モードにします。
選択ボタンを押して、右横の“▲”を最下段の“パスワード”に合わせてください。左図の様に表示され、“上2桁”の“00”の表示部が点滅します。

工場出荷時は、“パスワード”が設定されていないので、“00”が表示されます。

❷ パスワードの“上2桁”の設定をします。
変更ボタンを押して“上2桁”を“12”に合わせ、次にセットボタンを押します。このとき表示の点滅は“上2桁”から“下2桁”に移ります。



❸ パスワードの“下2桁”を設定します。
変更ボタンを押して“下2桁”を“34”に合わせ、次にセットボタンを押します。このとき表示の点滅は点燈に変わります。

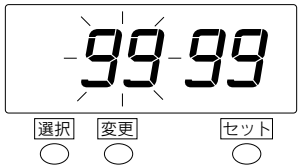


❹ 最後にセットボタンを押して設定モードから通常のご使用状態に戻します。

●パスワードを設定した後に各種設定項目を変更するには

パスワードを設定した場合は、パスワードを入力しないと、時刻修正や各種設定を変更できません。パスワードは忘れないように管理してください。

例 パスワードが“1234”の場合



❶ 選択と変更ボタンを同時に3秒間押します。
“9999”が表示され、上2桁が点滅します。

❷ 変更ボタンを押して、設定したパスワードの上2桁（ここでは“12”）に合わせ、セットボタンを押します。このとき、表示の点滅はパスワードの下2桁に移ります。

❸ 変更ボタンを押して、設定したパスワードの下2桁（ここでは“34”）に合わせ、セットボタンを押します。

これにより、表示が時刻の設定モードになります。
※左図は表示時刻が10時8分45秒の場合です。

パスワードの設定を解除するには

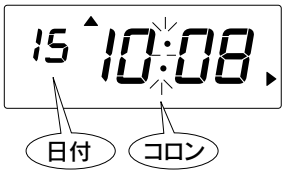
パスワードを忘れてしまった場合は後述の「リセット」を行ってください。
なお、リセットを行うと各設定項目は初期設定に戻りますので、あらためて設定しなおしてください。日付や時刻も設定しなおしてください。

例 パスワードを“1234”を解除する場合

❶ 選択と変更ボタンを同時に3秒間押して設定モードにし、「パスワードの設定」の手順2～4にしたがってパスワード“1234”を入力します。
選択ボタンを押して、右横の“▲”を最下段の“パスワード”に合わせてください。左図の様に表示され、“上2桁”の“12”が点滅します。

❷ パスワードの“上2桁”の設定をします。
変更ボタンを押して“上2桁”を“00”に合わせ、次にセットボタンを押します。このとき表示の点滅は“00”から“34”に移ります。

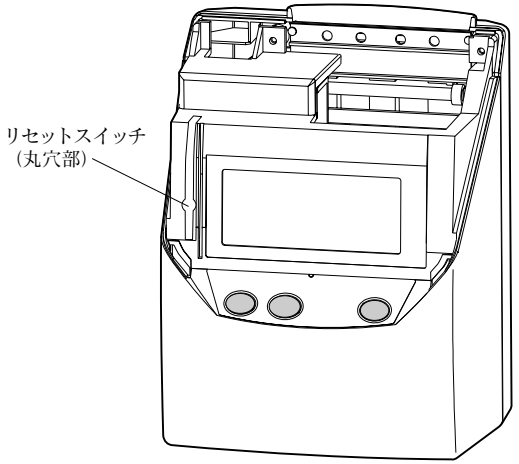
❸ 変更ボタンを押して“下2桁”を“00”に合わせ、次にセットボタンを押します。このとき表示の点滅は点燈に変わります。



❹ 最後にセット下ボタンを押して設定モードから通常のご使用状態に戻します。

リセットについて

すべての設定を初期の状態（工場出荷時の状態）に戻したいときには、先の細いものでリセットスイッチを押してください。



リセットすることにより、お客様が設定した内容は消えてしまいます（初期の状態に戻ります）ので注意してください。
設定をしなおす場合には「設定のしかた」をご参照ください。

6. こんなときには

エラー番号が表示されたら

以下を参照して正しい操作を行ってください。

番号	エラー内容	対策
E-01	メモリーバックアップ用リチウム電池の容量不足です。	販売店にご連絡ください。
E-05	タイムカードを正しく引き込むことができません。	タイムレコーダーにタイムカードが詰まっていないか確認してください。または、タイムカードを挿入し直してください。
E-15	タイムカードを正しく引き込むことができません。(カードセンサーエラー)	タイムレコーダーにタイムカードが詰まっていないか確認してください。または、リボンカセットがきちんとセットされているかどうか確認してください。 確認が済みましたら、セットボタンを3秒間押して、エラー解除をしてください。 それでもエラー番号が表示される場合は、販売店または弊社にご連絡ください。
E-30	印字ができません。 プリンタのモータ、またはホームポジションセンサーに異常があります。	
E-37	タイムカードを正しく引き込むことができません。 タイムカードを送るモータ、またはセンサーが正しく動きません。	
E-38	印字ができません。 プリンタのヘッドのモータ、またはセンサーが正しく動きません。	
E-40	パスワードエラーです。	パスワードを正しく入力してください。

故障かなと思ったら

●全く動作しない

電源コードはコンセントに正しく差し込んでありますか?

●印字しない

リボンは正しくセットされていますか?

●印字位置が合わない

締日、改行時刻はあっていますか?

タイムカードが折れたり、曲がったりしていませんか?

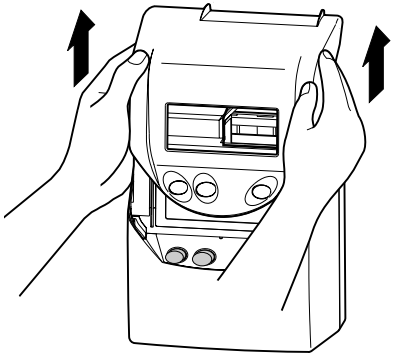
回復しない場合にはご購入の販売店または弊社へご連絡ください。

7. リボンの交換

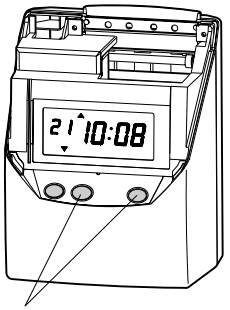
! 必ず電源を入れた状態で行ってください。

タイムカードに印字される文字がうすくなった場合は、リボンカセットを交換してください。あらかじめ装着されているリボンカセットは工場出荷時の機能検査用(モニタ印字リボン)です。ご使用時一部うすく印字される場合がありますのでご了承ください。

❶ “カバー”の左右2ヶ所を持ち、上に引き上げます。

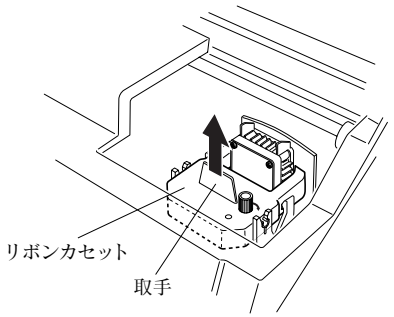


❷ 変更とセットボタンを同時に3秒間押して、“リボンカセット”を取り外せる位置に移動させます。

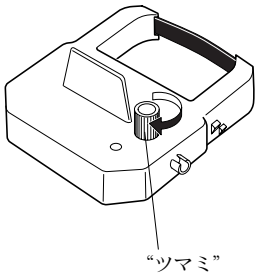


同時に3秒間押す

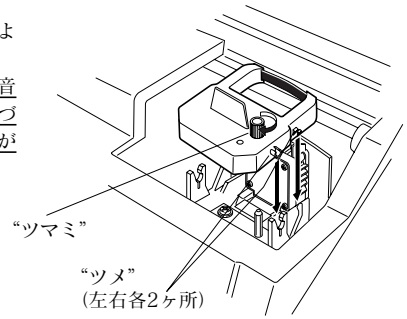
❸ 古い“リボンカセット”の取っ手を持ちカセットを上に引き上げます。



❹ 新しい“リボンカセット”の“ツマミ”を矢印の方向に回して、リボンのたるみをとります。

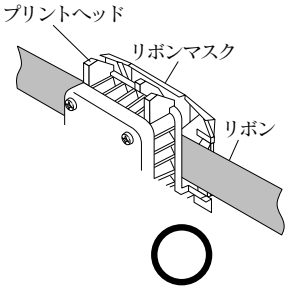


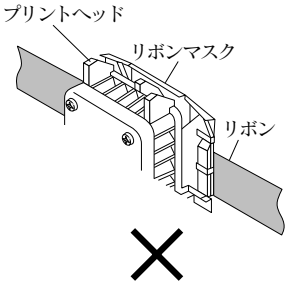
❺“リボンカセット”を本体に図のように装着します。
左右2ヶ所の“ツメ”がパチッと音がするまで押し込みます。入れづらいときには“ツマミ”を回しながら入れてください。



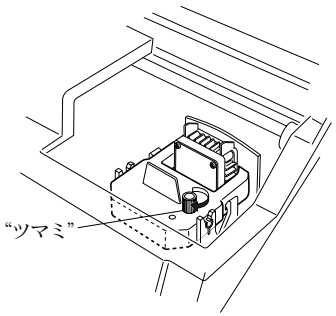
❻リボン交換時のご注意

新しいリボンカセットを入れるときには、次のことに注意してください。
下図のようにリボンが、**プリントヘッドとリボンマスクの間に入るようにリボンカセットを入れてください。(左側の図)**
リボンをリボンマスクの奥側にいれてしまうと、正常に印字できません。(右側の図)





❼装着した“リボンカセット”の“ツマミ”を矢印の方向に回して、リボンのたるみをとります。



❽“カバー”の下部両側の“耳部”を本体の“穴部”に真上から差し込みます。